

いずれにしても今後は患児（者）の基本的な人権が尊重され豊かな生活が保障されるために私達は尚一層の合理的、かつ効果的な記録の方法を開拓検討してゆかねばならないと考える。

< 参考文献及び資料 >

- 浅倉次男他「進行性筋萎縮症児（者）の療育記録の検討」第14回日本特殊教育学会論文集
- 全国国立DMP病院 看護記録、生活記録

2) 親子関係について 外出・外泊を通しての研究

国立岩木療養所

小野史生 森山武雄

< 研究目的 >

健全なる親子関係を維持するために、今までの面会（S49年報告）を外出・外泊へと拡大利用することにより、親の責任上で主体制がもたれ、子どもの遭遇するいろいろな機会がプランニングされ交流が強化され、親として子どもの心身の発達が正しく理解し、役割をみいだすと共に人間性を尊重重視されるのではないかと実施してみた。

< 方法 >

- 1) 対象児はDMPの小児病棟にて実施。
- 2) 毎月第3土・日曜日（4～10月まで）を位置づける。
- 3) 電話・手紙などで希望連絡のあるものを許可制にて実施。
- 4) 外出・外泊とも土曜日PM1時～翌日PM4時までの範囲内。
- 5) 特例として各種事情で4)に利用できない家庭を対象に国民祝日、その他の日曜日も3)の範囲で認める。

< 結果並びに考察 >

利用状況は表の通りである。stageに関係なく、地域性（家業）もあるが比較的気候に左右される面もあるが、半数以上が積極的に利用し、家族の交流、役割学習、親同士、家族の利用へと拡大された。しかし、年長児になると本人の意志が、外出・外泊にも反映されており、この点については更に検討を加える余地があった。

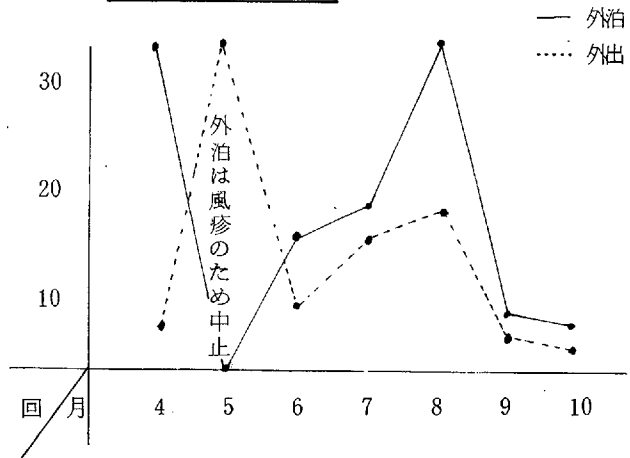
集団生活の基盤では、個々の家族の事情が大きな負担となる反面、集団意識の活用へと期待がもたれた。子ども自身からは、外出・外泊は季節的に関係なや生活圏を外へ刺激を求め生活体験拡大へと期待をかけ施設の封鎖性をも打破するきびしさにあります。

人間性を強化するためにも施設と社会との連帯を含め、施設万能主義的傾向を打開するため、今後親子のグループ外出・外泊を通し交流を目的として施設の社会化をおし進めるため、客観的に長期入所児の人間性追求の第一歩として、更に親子関係についての研究をおし進めたい。

1) Stage

	構成 %
1	5.4
2	10.9
3	0
4	0
5	2.7
6	18.9
7	37.8
8	18.9
9	2.7
10	2.7

ロ) 外出・外泊の利用状況



ハ) 外出・外泊について

アンケートより

	必要性			回数			時期	
	有	無	その他	月1回	月2回以上	2ヶ月に1回	4~10月	年間
親	86.5%	11.8	2.7	46.8	31.3	21.9	81.3	18.7
子	100.0%	0	0	37.8	56.8	5.4	35.1	64.9

必要性の主たる理由

1. 子どもの身体を知る。親子の対話、親同士の交流。 52.6 %
2. 身体の丈夫なうちにどこへでも連れて行く。 12.5
3. 必要であるも自分一人ではできない。 18.8
4. 必要であるも経済的・予定的に無理。 12.5

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

<研究目的>

健全なる親子関係を維持するために、今までの面会(S49 年報告)を外出・外泊へと拡大利用することにより、親の責任上で主体制がもたれ、子どもの遭遇するいろいろな機会がプランニングされ交流が強化され、親として子どもの心身の発達が正しく理解し、役割をみいだすと共に人間性を尊重重視されるのではないかと実施してみた。